

てんのり

— 発行所 —
 社会福祉法人一仁会
 山口県周南市大字大河内一〇五二八番地の二〇
 特別養護老人ホーム天王園
 天王園シヨーステイ
 天王園デイサービスセンター
 天王園在宅介護支援センター
 グループホーム天王園

特別養護老人ホーム

クリスマス会

十二月

中旬、食堂はクリスマススの装飾で彩られました。

二十四



日にはクリスマス会が開催され、サンタクロースからのプレゼントを受け取られました。職員にとつては、皆さんが喜ばれる姿が何よりのプレゼントです。今年も笑顔溢れるクリスマス会となりました。

グループホーム

クリスマスパフェ

十二月二十

四日、クリスマス会
でデザート作りを楽しみました。アイスクリームにイチゴやレーズンをトッピングしたクリスマスパフェを堪能した後、サンタクロースからのプレゼントを受け取り、ピアノ伴奏に合わせて、みんなでクリスマスソングを歌いました。



レクリエーション

レクリエーションで「魚釣りゲーム」を行いました。時間内にたくさん魚を釣り上げたり、レアナ魚を釣り上げると多くのポイントが獲得できます。「この魚は珍しいね」とおしゃべりをしながら楽しまれていました。

本物の

魚釣り体験とまではいきませんが、雰囲気を楽しむことができました。



シヨーステイ

笑い講

シヨーステイでは、毎年十二月になると「笑い講」を行います。「笑い講」とは豪快に笑って一年の憂さを祓い、来年の豊作を祈願する祭りです。サカキを持って「わーはっはっは」と三回大声で笑います。一回目は「今年の豊作を喜んで」、二回目は「来年の豊作

を祈って」最後は「今年の苦しかったこと、悲しかったことを忘れて」



を祈って」最後は「今年の苦しかったこと、悲しかったことを忘れて」

るため」という意味が込められていています。皆さんと一緒に大きな笑い声を神様に届けることができ、ご利益がありそうです。

レクリエーション

誰もが知っているジャンケンは多くの人が参加することができ、とても盛り上がりがあります。

この日のレクリエーションでは「後だしジャンケン」を楽しんでみました。一見単純なようですが、素早い判断力と集中力が養われます。



デイサービスセンター

玄関飾り（クリスマスツリー）

段ボールで幹を、ビニールテープで葉を作り、大きなもみの木が完成。



そこにクリスマスカラーの塗り絵や貼り絵を飾り、お花紙で作ったポインセチアや毛糸で作った帽子を飾ると、豪華なクリスマスツリーが完成しました。



クリスマス会

十二月二十二日、二十五日にクリスマス会を行いました。

催し物では「あわてんぼうのサンタクロース」の曲に合わせて、利用者さんにカスタネットやマラ



カス、タンバリンでリズムを取っていたいただきました。次は「赤鼻のトナカイ」の曲に合わせ職員が踊り、最後にハンドベルで、利用者さんと職員で「ジングルベル」を演奏しました。息が合ったハンドベルの綺麗な音色に、心癒されました。皆さんと一緒に楽しい時間を共有でき、達成感あふれるクリスマス会となりました。

土鈴

二〇二四年の干支「辰」の土鈴の色付けをしていただきました。



工夫をこらしながら真剣に取り組まれ、皆さんの見事な筆さばきに感動です。
来年も良い年となりますように。

在宅介護 支援センター

ランチ活動記

先日、リハビリ専門職との同行訪問を実施しました。これはリハビリ職（理学療法士や作業療法士）が利用者宅を訪問し、専門職の視点から助言や指導を行う周南市独自の事業です。

今回訪問した方は日常生活は自立ですが、腰や膝痛等により転倒リスクが高まっていることから、専門職による聞き取りや住宅内外の環境、ご本人の身体の動きの確認等を通し、その方に合った生活改善方法の提案やアドバイスを行っていくこととなりました。
今回、指摘された項目の中では、高低差のある場所での出入りや歩行時の不安定さが特に目立ち、転倒予防を目的とした住宅改修の提案に加え、座ったまま行える下肢のトレーニング方法を学んで頂き

ました。現在も無理なく続けられており、リハビリへの向き合い方や活動意欲の向上にも繋がったと、本人からの感想を頂いています。

12月誕生日の方々

（特別養護老人ホームの利用者様）

- ☆木村マサコ様 …… 九十六歳
- ☆森本トミ子様 …… 九十四歳
- ☆辻 トヨ子 様 …… 八十五歳
- ☆田村喜美枝 様 …… 九十一歳
- ☆清水チエ子 様 …… 九十四歳



皆さんおめでとう！
おめでとう！

編集後記

今年も残りわずかとなり、何かと忙しい毎日を過ごしています。年末年始の予定を点てながら、新施設の開設準備等、やるべきことが一気にやっつき、時計の針の進みがいくつと速く感じられます。
さて、長らく月刊で発行してまいりました「このう」ですが、次号から三カ月ごとの季刊となります。今後引き続きご愛読のほどよろしくお願いいたします。